東濃農林事務所の普及活動状況

令和７年６月

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■有機農業　有機農業実践者の農場視察を実施

６月 11 日、管内若手生産者(きなぁた瑞浪出荷者協議会員)ら計９名が、岐阜市鷺山の岐阜県有機農業アドバイザーの農場を訪ね、有機農産物の栽培及び販売についての視察を行った。

農場は面積 10ａ。露地野菜を通年で少量多品目栽培し、近隣のＪＡ直売所で販売している。

完熟たい肥による土づくりを重視し、発酵鶏ふん及び油かすによる追肥、天敵定着のためのバンカープランツの植栽や黄色ＬＥＤランプによる夜行性害虫の活動抑制、風通しを良くするために草高の異なる品目を配置した病害対策など、無農薬、無化学肥料栽培の実践にあたっての栽培技術のポイントについて学んだ。

また、販売ではＪＡぎふ独自の認証制度「ぎふラル」に登録し、商品包装では栄養素や食べ方など独自のラベルを貼付。ＳＮＳを使った顧客への情報発信など独自の工夫を行っており、十分な経営が成り立っているとのことであった。

現在、農業普及課では東濃地区有機農業推進プロジェクトチームで、水稲を対象に有機栽培モデル実証ほに取り組んでおり、引き続き、管内の有機農業を支援していく。

【ほ場説明の状況】

【工夫された商品包装】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲（酔むすび）・新酒米による産地づくり研究会

第１回新酒米による産地づくり研究会が開催

６月 25 日、中山間農業研究所中津川支所で第１回新酒米による産地づくり研究会が開催され、生産者等 40 名が出席した。

研究会では、試験研究機関における研究内容や東濃、恵那管内の生育状況について検討が行われた。農業普及課から、栽培暦の注意点や生育調査の状況を報告し、生産量確保に向けた取り組みを行うよう指導を行った。その後、中山間農業研究所中津川支所及び生産者ほ場で現地検討を行った後、酒造メーカーにて、酒づくりの仕込み状況を見学した。

研究会は、県が育成した酒造好適米品種「酔むすび」の生産技術の平準化と品質向上等を目指して、令和６年に設置され、生産者等 21 組織で構成されている。農業普及課は、研究会会員の一員として、栽培技術の向上を通じて、「酔むすび」のブランド化を支援していく。

【現地検討の状況】

【酒蔵見学の状況】